平成２９年８月２５日発行

あつま 生涯学習だより

発行　厚真町教育委員会　電話２７－２４９５

主な記事
・約 5,100 年前の縄文土器を展示
・新外国語指導助手来町
・第３回子ども教育委員会
・７月定例教育委員会報告
・平成２９年度児童生徒芸術等鑑賞会のお知らせ
・文化祭作品募集
・図書室だより
・放課後子ども教室活動紹介

約5,100年前の縄文の美

青少年センターホール展示

7月27日から青少年センター入口ホールで、幌内地区厚幌ダム建設事業に伴うショロマ1遺跡の発掘調査で出土した縄文土器を展示しています。

展示している土器は、大きな竪穴式住居跡の生活していた床面から横倒しとなった状態で見つかりました。今から約5,100 年前の縄文時代前期の終わりごろに本州の青森県から北海道の函館・室蘭方面にかけて作られた「円筒土器下層d2式」です。底から口まで完全な形に復元できたものとしては、北海道内において最も東に位置しています。

巨大集落で有名な青森県三内丸山遺跡でも同じ土器が見つかっています。このことは、当時の文化交流を探るうえでも重要な意味をもっています。また形や文様も優れた美術的作品としても見応えがありますので、ぜひご覧ください。

縄文土器の出土状態

展示されている縄文土器

外国語指導助手 エリッサ・ドイルさん来町

本町のＡＬＴ（外国語指導助手）のエレン・マリアノさんの後任として、エリッサ・ドイルさんが来町しました。エリッサさんは、カナダ・トロント出身です。

厚真町の皆さん、こんにちは。私の名前はエリッサです。私はカナダのトロント出身です。今回初めて日本に来ました。私は山や自然が好きなので、北海道での生活をとても楽しみにしています。私の好きなスポーツはスキーで、今から冬が楽しみです。皆さんの歓迎に感謝します。これから皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

※エリッサさんと英語を学ぶ英会話教室を開講します。詳細は3Pです！

第3回「子ども教育委員会」が開催されました

～アウトメディアの取組の充実を！～

7月24日に、総合福祉センターで、今年で第3回目となる「子ども教育委員会」が開催されました。町内の小・中学校の児童会・生徒会役員 17 人が出席し、昨年採択された「アウトメディア宣言」が、児童・生徒にどれくらい意識され、アウトメディアが取り組まれているかについて、各学校の全児童生徒を対象にしたアンケートの結果をもとに、アウトメディアの取り組みの充実に向けて協議を行いました。

小学校グループ

「アウトメディアを意識して生活している」と答えた児童や「メディアの利用をへらした」児童の割合が多いが、反面、アウトメディアを意識しない児童もいることから、家庭でできることや学校や町でできることについてまとめました。

【家庭でできること】
- メディア利用の時間をくぎる。
- 勉強の目標時間を決める。
- 家族みんなで話し合って、ルールを決める。
- 目に見える範囲にメディアを置かない。　など

【学校や町でできること】
- 呼びかけのポスターをはる。
- 全校集会や放送で呼びかける。
- 一人一人の意見をアンケートで調べる。
- ノーゲームデーに取り組む。　など

中学校グループ

アンケートの結果から意見を交流しました。

・アウトメディアを意識しないで生活している生徒が多い
・アウトメディアが親に十分伝わっていないことも考えられる
　→親も含め大人にアウトメディアを伝えていく必要がある
・アウトメディアの対象を幼児期から進める
・地域の環境や自然を生かして、友だち同士で楽しめることに取り組んでいく
・アウトメディアについての考えを共有する
・親子で一緒に学習する機会をつくる

【今後の取組について】
- 大人にアウトメディアを伝える。
- 地域の特徴を生かす。（自然に恵まれていることなど）
- 声をかけ合う。
- 考えを共有する。
- ルールを作る。　など

文化祭展示作品募集

11月3日(金)(文化の日)、4日(土)に「厚真町文化祭」が総合福祉センターをはじめ各施設で開催されます。

文化祭実行委員会では、町民の皆さんから様々な展示作品を広く募集しています。

なお、展示スペースに限りがありますので展示を希望される方は、9月14日【木】までにお申し込みください。

◆問合せ
教育委員会内　文化協会事務局
☎27－2495　担当　宮下

７月定例教育委員会

7月27日に開催された定例教育委員会の会議内容についてお知らせします。

◆報告事項
第1回厚真町学校運営協議会設立準備委員会について、近藤・中村奨学金給付者について、厚真町「子ども教育委員会」について、自治会対抗 PG 大会、トーチカ見学、青少年健全育成メッセージ伝達(ほか10件)

◆協議事項
学校給食費の改定について、小中一貫教育の検討についてなど(2件)

◆その他
教育委員道内視察研修について(1件)

★問合せ　教育委員会　学校教育グループ
TEL27-2494

エリッサさんの英会話教室を開講します！

カナダ出身の町ＡＬＴ(外国語指導助手)エリッサさんによる９月～１１月期の英会話教室を開講します。途中からの参加も可能ですので、参加希望の方は事前に申し込みをお願いします。

◆日　程　**９月２０日～１１月１５日**までの毎週水曜日　全１０回
◆時　間　**午後６時から７時**
◆場　所　青少年センター２階　研修室
◆対　象　英会話に興味のある中学生以上の町民の方
◆申込み　教育委員会　社会教育グループ
◆問合せ　Tel　２７－２４９５

平成29年度児童生徒芸術等鑑賞会

今年度は東京都の劇団新制作座の皆さんをお招きし、ドラマティックリーディング（朗読劇）「泥かぶら」＆「八郎」を行います。プロの舞台俳優による情感あふれる朗読と、プロのバイオリニストによる生演奏のコラボです。一般町民の皆さんにも開放しますので、ぜひご来場ください。

と　き　**9月4日【月】**
[午前の部]午前１０時４０分開演
[午後の部]午後　１時３０分開演
ところ　厚真中央小学校体育館
演　目　朗読「泥かぶら」、「八郎」ほか１話
主　催　厚真町教育委員会
問合せ　教育委員会　社会教育グループ
☎２７－２４９５

「泥かぶら」は劇団新制作座によって昭和２７年に初演された演劇です。初演から今年で６５周年を迎えます。全国各地で 15,000 回以上の公演が行われています。上演６０周年の２０１２年、絵本が出版されました。絵本は青少年センター図書室にて展示・貸出を行っています。ぜひご覧ください。

平成２９年８月２５日発行

図書室だより

青少年センター図書室
℡２７－２４９５（平日）

本を長く楽しむために

紙でできている本は破れたり濡れたりすると使用することができなくなってしまします。その半面、丁寧に扱っていただければ何十年も使える丈夫な資料です。厚真町の貴重な財産として長く使用していただくために、ぜひご協力ください。

水が苦手

一度濡れてしまうとしわがよったりカビが生えたり、ページ同士がくっついてしまいます。飲み物などを開いたページにおくと、輪じみというコップのあとが本についてしまいます。

食べ物が苦手

どれだけ小さな食べカスでも油分が含まれているとしみができます。その食べカスは本に虫を引き寄せて本を穴だらけにしてしまいます。

書き込みが苦手

本を読んで、なるほど！と思っても、みんながそう思うとは限りません。他人が見たらただの落書きです。書き込むのは自分の本か手帳にしましょう。

無理やり開かれることが苦手

本をコピーしようと大きく開いてしまうことありませんか。最近の本は糊で作られていることが多く、一度割れてしまうとそこからページが剥(は)がれ落ちてしまいます。

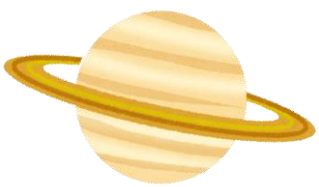
本を利用中にページが外(はず)れたり破れてしまったりしたときは、
そのまま図書室カウンターまでお持ちください。
修理はこちらで行います。

○青少年センターからのお知らせ○

夜間プラネタリウム投影会
～初秋の星空～

と　き　９月１４日（木）午後６時３０分
※晴天の場合は、引き続き天文台で観望会を実施します。
（当日は、土星等を観察できます）

ところ　**青少年センター**
プラネタリウム室・天文台
※夜間開催のため、小・中学生のみでの参加の場合は、保護者の同伴もしくは送迎が必要です。



このコーナーへのお問い合わせは・・・
℡２７－２４９５まで

平成２９年８月２５日発行

新着図書紹介

ここで紹介した以外にも新着図書がありますので、ぜひ図書室までお越しください。

一般書

『真夏の雷管　道警・大通警察署』
佐々木　譲/著

北海道を舞台にした警察小説第８弾。ある３つの物が盗まれた。それは札幌を震撼（しんかん）させる爆破事件の準備のためだった。実際に使っている場所が舞台になっていると、まるで読者も登場人物になったかのような気になれます。

その他の新着一般図書

- 秋霧　大倉崇裕/著
- 暗闇のアリア　真保裕一/著
- 嵯峨野花譜　葉室麟/著
- 悪寒　伊岡瞬/著

児童書

『オムライスのたまご』
森　絵都/作

たまごに生まれたからには、最高のオムライスになりたい！たまごのタマキちゃんは夢をかなえるために、まぼろしのオムライスをだすお店のたまごオーディションを勝ちすすみます。タマキちゃんはオムライスになることができるのでしょうか。

そのほかのあたらしいじどうしょ

- おねえちゃんていっつもがまん！？　いとう　みく/作
- 海のぷかぷか　高久　至/写真
- ぴっかぴかすいぞくかん　なかのひろみ/写真

実用書

『３ステップで簡単！ご馳走山料理』　小雀　陣二/著

３ステップでレシピ通りに出来上がるかは、本人の腕次第ですが、缶詰などを利用するので遅く帰った日の晩ごはんなどに応用できそうです。屋外で、仲間と、ガスや水道がない環境で作って食べるからおいしいのかなとも思いますが、料理が苦手な私でもこれならできるのではと思える１冊です。

その他の新着実用書

- ダム大百科　萩原雅紀/監修
- 週末でつくる紙文具　永岡　綾/著
- 切手で遊ぶ絵封筒　ニシダシンヤ/著
- 勝ちすぎた監督　中村計/著

絵　本

『ぱかっ』
森　あさ子／作

青い表紙をめくると、たまごが一つ。そして次のページで「ぱかっ」とたまごが割れます。たまごだけではなく、わにやおべんとうもぱかっとします。また、「ぱかっ」ということばも声に出すととても楽しいのです。お子さんといっしょに読んで、いっしょにぱかっとしてあげてください。

そのほかのあたらしいえほん

- おばけのおもてなし　川端誠/作
- ぱんぽんちん　柿木原政広/作
- うみのそこたんけん　中川ひろたか/作

～図書室からのお知らせ～

■９月の休館日
18 日（月）　敬老の日
２３日（土）　秋分の日

■青少年センター図書室開館時間
午前９時～午後５時（月・水・金・土・日）
午前９時～午後７時（火・木）

■厚南会館図書室
午前９時～午後５時（月～日）
※毎月５日・20 日が土日・祝日の場合は休館となります。

■９月の移動図書
・上厚真小学校
７（木）、15、22 日(金)
午前 10 時 10 分～10 時 25 分

・ともいき荘
15 日(金)　午後２時 00 分～2 時 30 分

■絵本の読み聞かせ　おはなしのびっ子
場所：青少年センター　絵本コーナー
28 日(木)　午前 10 時 30 分～11 時

☆放課後子ども教室☆

お盆を過ぎると、日差しは暖かくても吹き抜ける風には秋の気配を感じます。先日、赤とんぼが飛んでいるのを見かけました。季節はゆっくりとですが確実にめぐるものなのだと実感します。

今年の放課後子ども教室・夏休み特別教室では、川や海といった夏ならではの水辺での自然体験プログラムと、地域の方々に協力を得て開催しているあつまっ子カフェプログラム、計 3 日間の活動を行いました。

川遊びプログラムでは、1～3 年生 28 名が参加。元気いっぱいの低学年チームと一緒に、今年もむかわ町穂別地区にある川遊びスポットへお出かけです。現地到着後、お昼ご飯を食べ、安全に川遊びが楽しめるようヘルメットやライフジャケットなどの装備を整えました。あいにくの空模様でしたが気温は高く、水量もちょうど良い絶好の川遊び日和です。川をプカプカと浮いて流れるボディラフティングや、川辺での生き物探し、ボート遊びに飛び込み大会など、思い思いに楽しんでいる様子がうかがえました。海遊びプログラムでは浜厚真海岸へ。4～6 年生 10 名と参加者は少なかったものの、少数精鋭（しょうすうせいえい）で寄せる波に立ち向かって大いに遊び、午後からは海で拾った貝殻や流木を使ってクラフト（工作）体験を行いました。波がない状態だと大人のひざ下 10 センチ程度の水量ですが、ひとたび波立つとゆうに腰ぐらいの高さまで水しぶきが上がります。子どもたちは波に向かってジャンプをして遊ぶだけでも大興奮。スタッフが用意したサーフボードに乗って、波乗りに挑戦する子もいました。「海遊びに行くのは今日が初めて！」と言っていた子も、大きな波に怖がることなく、友だちと一緒に夢中になって遊んでいる姿が印象的でした。

毎年 7 月末に開催されている『ともいきの里夏祭り』会場にて、子どもたちが運営するお店・あつまっ子カフェが今年もオープン。厚真町社会福祉協議会、厚真町商工会青年部をはじめ、地域の方々のご協力を得て、今年で 4 年目の取り組みとなりました。4 年連続で参加しているベテランさんから、初めて参加する子も含め、今年は 21 人の子どもたちが集まりました。お店作りに必要なノウハウを学び、接客はもちろん、会場設営や商品の仕入れ、看板やポップづくり、会計確認まで子どもたちが主体となって運営します。大人はあくまでもサポーターとして口は出しても手は出さず、子どもたちのことを信じて見守ります。子どもたちは大きな声でお客さんを呼び込んだり、丁寧に商品の説明をしたりと自分の役割に一生懸命向き合っていました。米粉スィーツのお店・稲菓から仕入れた米粉パン、土居ハスカップ農園特製シロップを使ったハスカップソーダ、海沼農園の朝採りブロッコリーを販売し、約 2 時間で全ての商品を売り切ることができました。売り上げから諸経費を差し引き、ひとり 400 円のお給料を手にした子どもたち。サポートしてくださった商工会青年部の金谷部長から「みんなが一生懸命稼いだお金です。夏の良い思い出になるような使い方をしてくれると、応援した私たちもうれしいです」という言葉をかけてもらいました。地域の方々に支えられてできているこの活動が、子どもたちの心の根っこを支える原体験として残ってくれることを願います。